

第26回 外国人市民による日本語スピーチコンテスト

毎年恒例の「外国人市民による日本語スピーチコンテスト」が2月6日(土)、川崎市国際交流センターで開催されました。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場は関係者のみに制限され、一般観覧者はオンラインでのライブ配信を視聴という初の試みでした。

今回は5か国から11名が出場し、審査員長の関口明子さんは、「このような時期に今年も開催できたことを大変嬉しく思います」と参加者に感謝の言葉を述べました。

司会の游 凱威さん(右、中国出身)とリー アダさん(左、香港出身)は川崎市国際交流協会の日本語講座で勉強中!



上位2名の受賞者にインタビューしました。

【質問内容】

- ①日本語スピーチコンテストに参加したきっかけ
- ②テーマを選んだ理由と伝えたかったこと
- ③川崎の好きなところ、良いと思うこと
- ④コロナ禍が続くなかでどう過ごしているか、乗り越えていこうと思うか

最優秀賞

パスポング マールット さん

【タイ出身】

「災害に負けないように」

①去年、観客としてコンテストを見に来ました。そこで自分と同じように日本語を勉強している外国人のたちがスピーチをしているのを見て、自分も伝えたいことがたくさんある、出てみたいと思ったのがきっかけです。日本語の先生に話したら「やってみよう」と背中を押してくれました。

普段の仕事では英語しか使わず、日本語を話す機会がなかったので、目的があればもっと日本語がうまくなるのではと思ったことも参加を決めた理由です。

②ずっと前から消防団に入りたいと思っていましたが、日本国籍ではないので無理でした。昨年、川崎市で機能別消防団員が誕生し、外国人でも入団資格があると知って応募したところ、10月に念願がなって団員になることができました。外国人の消防団員については川崎市ではそれまで聞いたことがなかったので、もっと消防団員のことや外国人でもなれることを知ってほしいと思いました。

③交通が便利なところです。通勤だけでなく、武蔵小杉は成田エクスプレスが停まるし、羽田にも近いので、タイに帰るときもとても便利です。渋谷で乗り換えて、スカイツリーも見に行けます。

④日本はアメリカに比べればまだ感染者は少ないですが、コロナは本当に怖いです。今は消防の訓練も中止されていますが、とにかく手洗いとマスクを心掛けて乗り切っていきたいと思います。

川崎商工会議所会頭賞

单 望舒 さん【中国出身】

「マスクの下はどんな顔?」

①日本語クラブの友達に勧められたことがきっかけで、参加しようと思いました。人前で話すのは苦手なのですが、2月から日本の会社で働くことになったので、社会人になるためにも良い鍛錬になるのではと思い挑戦することにしました。日本語クラブの友達に、原稿の添削やスピーチの練習などを手伝ってもらい、とても感謝しています。

②コロナがまだ続いているので、マスクの話題が良いかなと思いテーマに選びました。マスクはできればない方がお互いの顔が見えて良いですが、マスクをつけるようになって気づいたメリットもあります。そういうことを冗談も交えて話すことで、みなさんに笑顔を届けられたらなと思いました。

③とても便利なところが気に入っています。特に、川崎や武蔵小杉の駅周辺は商業施設や美味しいお店もいっぱいあって、わざわざ東京まで行く必要もありません。ずっと川崎から離れたくないと思っています。

④今まで通っていた日本語クラブでの活動など、すべて停止になってしまいました。このままだと外との関係が切れた状態になってしまうと思い、今はオンラインでの交流会に参加しています。日本人や外国人と一緒に日本語や英語を交えて普段の生活のことなどを話しています。こういう場が持てるようになったことで、また生活が充実してきたと思えるようになりました。



川崎ライオンズクラブ優秀賞

張 博偉 さん

【中国出身】

「『マジョリティ』から『マイノリティ』に」



川崎市国際交流協会優秀賞

張 瀛洲 さん

【中国出身】

「映画の音楽」



川崎ライオンズクラブ特別賞

ガルファニ ヤハヤ スワンディ さん

【インドネシア出身】

「もう終わり?まだ終わりじゃない」



川崎市国際交流協会特別賞

陳 雯兒 さん

【中国出身】

「日本で流行っている二胡の曲」

(取材・文:編集ボランティア 服部有花、写真:編集ボランティア 安田芳郎)



チェコ・日本交流100周年だった2020年、立古ダニエラさんに『国際文化理解講座』の講師として、日本との交流史や、チェコガラスビーズアクセサリーの作り方を教えていただきました。

皆さんはチェコと聞いて何を思い浮かべますか？美しいプラハの街、ビール、ボヘミアングラス…魅力あふれるチェコと日本について語っていただきました。

立古ダニエラさん



Q1 日本にいらっしゃったきっかけを教えてください。

日本の建築や漢字などにとても興味があったので、高校生の時に語学学校で日本語を勉強していました。その後、カレル大学で日本学科に進みました。その頃はまだ社会主義の時代で、日本との交流も頻繁には行われていませんでした。

5年に1度だけ行われる国際交流で日本に来る機会がありました。たった2週間ほどの滞在でしたが、その時に主人に出会いました。その後、文通や電話で交際を続け、大学卒業後、数か月で日本に来て結婚しました。

Q2 運命的な出会いでご結婚されましたが、日本でカルチャーショックはなかったですか？

まったくなかったです。歴史、文学、歌舞伎、能、相撲など大好きなものばかりです。

ただ日本の食事では、魚介類すべて苦手です。日本食を好きな外国人は多いですが、私はお寿司も好んでは食べません。夫と子どものために魚のお料理はしますが…。食パンも柔らかすぎて苦手です。サンドイッチも耳が切ってあって、歯応えもなくフワフワ、好みではないです。黒くて硬いパンが大好き！私の住んでいる吉祥寺には、美味しいドイツのパン屋さんがあって嬉しいです。

でも、日本のみかんは大好きです。日本に来たばかりの頃は1日1kgも食べていました。

Q3 チェコの代表的なお料理はなんですか？

グラシュ(ビーフシチュー)、ヴェプショヴィー・ジゼク(ポークカツレツ)、プランボラク(ポテトパンケーキ)などです。チェコ料理の材料はほとんど日本でもそろいます。最近はクヴァーク(フレッシュチーズの一種)もネットで手に入るようになりました。

Q4 チェコガラスビーズの店「ボヘミア吉祥寺」を開かれたのは、結婚後すぐですか？

そうです。日本で何か仕事をしようと考えていて…。チェコで日本語のガイドや通訳をしていた時知り合いになった方々がお店のお客さんとして来てくれました。日本人は本当に義理堅いと思いました。

Q5 チェコガラスについて教えてください。

以前はチェコグラスを扱っていましたが、阪神大震災以降は壊れやすいので売れなくなり、その後のビーズブームでアクセサリーやガラスボタンを多く扱うようになりました。ガーネットとパワーストーンとして知られるモルダバイトという薄いグリーン天然ガラスが人気です。モルダ川に落ちた隕石の周りにできた自然のガラスで、とても神秘的です。



チェコガラスビーズアクセサリー

Q6 チェコから持ってきて、愛用しているものはありますか？

卓上カレンダーです。チェコでは人の名前の種類が限られていて、1日1日に人の名前がついています。私の名前は9月9日です。これを「私の名前の日」と言っています。

お誕生日とも違う特別な日です。手帳にも同じように名前が書かれています。



名前が載っているカレンダー

Q7 芸術であふれているイメージのチェコですが、人々にとって芸術は身近なんでしょうか？

空港で突然コーラスが始まって皆を驚かせたり、街を歩くと教会でコンサート、宮殿でコンサートという感じです。小さなコンサートですが、街中で出会うことができます。

また映画「アマデウス」ではプラハの街が、「ミッション・インポッシブル」では国立博物館が使われています。「土地の精神」という言葉があり、チェコではその土地に行けば、その土地のインスピレーションを得られると言われていました。

Q8 プラハは世界で一番美しい街のひとつと言われていますが、街は昔から変わらないのでしょうか？

年に1回はプラハに行きますが、どんどん変わっています。カレル橋のふもとにスターバックスコーヒーやマクドナルドができています。プラハの人口は100万人ですが、観光客は年間800万人と言われています。外国人に人気があるのは嬉しいですが、どんどん観光客中心になり、物価も上がっています。まるで渋谷のスクランブル交差点のようです。私はこれ以上、大好きなプラハが変わってほしくありません。

Q9 交流100周年にちなんで最後にお話いただけますか？

日本の皆さんに、もっとチェコに興味を持ってもらいたいです。チェコ人は日本人が大好きです。チェコでは盆栽や囲碁など、日本ならではのものが取り入れられています。チェコ人と日本人は謙虚なところ、奥ゆかしいところなど、氣質が似ていると思います。これからもますます交流が進んでいくことを期待しています。

心から日本を愛しているダニエラさん。運命的なご主人との出会いで日本にいらっしゃって30年！チェコと日本の強い架け橋です。いつか美しいプラハの街に行って「土地の精神」を体感したいと強く思いました。



相沢編集ボランティアの取材を受けるダニエラさん